

〈提言1〉



教員のICT活用指導力向上に向けた特別支援学校の取組

北海道星置養護学校ほしみ高等学園教諭 小林 義 安

はじめに

改訂された特別支援学校等学習指導要領（特別支援学校幼稚部教育要領 小学部・中学部学習指導要領則及び特別支援学校高等部学習指導要領）では、ICT活用に関して「生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を考慮し、言語能力、情報活用能力（情報モラルを含む。）、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育成していくことができるよう、各教科・科目等又は各教科等の特質を生かし、教科等横断的な視点から教育課程の編成を図るものとする。」と示されています。また、国においては、「子供たち一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて」としてGIGAスクール構想の下で、1人1台端末と高速ネットワーク整備を進めているところです。

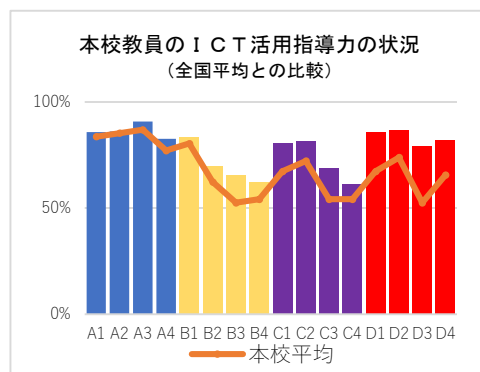
一方で、学校現場では、黒船に例えられているように、突如のICT環境の大幅な充実を受け、新たな教育環境の整備に苦勞する場面も見られています。子供たち以上に、私たち教員が身構えてしまっている様子も見られています。私見ではありますが、指導する立場である私たち教員のICT活用能力向上が、今後のGIGAスクール構想の進展、ひいては令和の時代の新しい教育の成功のカギであると思います。

1 本校教員のICT活用指導力の現状について

本校教員のICT活用指導力の現状を考える際に、毎年文部科学省で実施されている「学校における教育の情報化の実態等に関する調査」の「教員のICT活用指導力の状況」という項目に着目してみました。本校教員と全国平均を項目ごとに比べると、授業や校務でのICT活用能力は著しい差はなかったのですが、「D 情報活用の基盤となる知識や態度について指導する能力」の部分で他の項目に比べて数値が低い状況がありました。具体的には、いわゆる「情報セキュリティ」に関する部分の指導力に弱みがあることが分かりました。

本校における普通の授業の中での活用ですが、「一斉指導」と「個別指導」に大きく分けることができます。

一斉指導の場面では、多くの学校でも行われているような、プレゼンテーションソフトでのスライド提示が最も多く使われています。一昔前までは、授業ごとに掲示物などを作成していましたが、現在はデータの再利用が容易で、マルチメディア要素（動画、画像、音声など）を盛り込むことができるのが大きなメリットになっています。また、タブレット端末でのカメラ機能は、操作も直感的に行うことができることもあり、積極的に使われるようになってきました。写真を撮るだけでなく、ビデオも録画でき、動画編集そして閲覧までの一連の流れも端末内で完結させることができるので、最近の使用頻度が高まっています。そして一部ではありますが、オンラインクイズも利用するようになってきています。単純な文字だけではなく、画像や音声をクイズの問題や解答の選択肢に貼り付けることで、生徒の興味・関心を引くこともでき、効果的な指導に繋げることができるようになってきました。



【本校教員のICT活用指導力の状況】



【オンラインクイズの様子】

個別指導の場面では、「文字の入力」、「語彙の拡充」といった国語的な能力や「数の概念」「四則計算」など算数・数学的な能力の伸長を目指した指導を行っています。

従来の校務用パソコンと校内サーバーを使つての教材の共有だけでなく、指導者用端末とGIGAスクール構想で実現した高速ネットワークを有効に活用したクラウド活用も少しずつ進んできています。まだ、個人情報問題もあるため全面的な活用には程遠い状況ではありますが、端末とクラウドのシームレスな連携を図ることにより、教材の共有などが少しずつ円滑に行えるようになってきています。

2 本校における教員のICT指導力向上に向けた取組の具体について

これからの令和の日本型学校教育の前提である、一人ひとりに個別最適化され、創造性を育む教育ICT環境の実現に向けて、一番の課題となっているのが、我々教員のICT活用指導力の向上だと思います。そのため、本校では主に以下のことに取り組みました。

昨年度の本校の校内研究においてコロナ禍における授業改善の一環として「教材共有プロジェクト」を立ち上げ、その中でICT活用を一つのカテゴリーとして取り上げました。そして今年度は、学校全体の指導の重点としてICT活用を盛り込み、教員全体への意識化を図りました。改訂された新しい学習指導要領の実施に向けた取組の中でも折に触れて話題に上がっていたこともあり、少しずつではありますが、浸透してきたと思います。

次に研修会の開催があります。本校研究部主催の夏季研修会で、外部講師を招いてタブレット端末のカメラ機能を使った初歩的なICT活用研修講座を開催しました。まずは最初に何に取り組むべきかを、具体的かつ分かりやすく学ぶことができたと思います。

その後、校内無線ネットワークの本格的な始動と指導者用タブレット端末の配備に伴い、多くの教員から基礎的な技術を学ぶ研修の要望が出てくるようになりました。そのため、関係分掌で協議して時間を捻出し、後期よりICTミニ研修会を実施することになりました。「指導の改善」、「業務効率化」、「短時間」、「タイムリーな内容」などをキーワードに据え、毎月1回程度の実施を心がけるようにしています。また、担当者も輪番や分担にすることで、多様な研修が行えるようになってきています。

そして、冬期にはICT活用研修会を本校職員が講師となって行いました。「授業におけるICT活用」「子供の実態に根ざしたICT活用」の2本立てで、多くの教員が参加して指導者用タブレット端末をどのように生かしていくのかを真剣に考える貴重な機会になりました。

このように本校の教職員においては少しずつ着実にICT活用が進み、教員のICT指導力が向上してきているのが、様々な授業場面において見られるようになっています。



【校内夏季研修の様子】



【校内冬季研修の様子】

3 教員のICT指導力向上に向けた取組の今後の展望

来年度から、特別支援学校高等部においては新学習指導要領が年次進行していきますが、GIGAスクール構想における1人1台端末は、保護者負担によるBYOD (Bring Your Own Device: 個人持込端末) または就学奨励事業などにより購入した端末で対応していくことが既に周知されています。あと数年後には、全員が端末を持つ時代が来ます。そこで私たち教員に必要なのは、「子供一人ひとりに個別最適化された学びの多様性を認めたICT活用」なのではないかと思っています。そのためには「環境整備」だけでなく「人的資源の整備」が大切になってくるはずであり、教師のICT活用指導力の向上はより一層重要になってくると思います。そこで大事なことは「とりあえずやってみる」、「戻る勇気も必要」、「誰一人取り残さない」の3つに集約されるのではないかと思います。様々な形の研修を通じて教員全員がICT活用指導力を向上させることで、今後の特別支援教育の質が全体的に向上していくことを切に願っています。